

自立活動 分野別 指導プログラム (分野 C コミュニケーション・言葉)

分野の目的		コミュニケーションの能力を高める。 日本語の獲得を目指し、聴覚障害幼児・児童・生徒に適した手段で言語習得を図り、読み書き能力を高める。				
指導上の留意点		・子供の発達段階、聴力レベル、聴覚活用の状態、障害の状態などに合わせて指導する。 ・子供の教育歴の違いに応じて、指導の始まりの段階を考える。 ・子供の言語力・コミュニケーション力の評価を客観的に行い、指導の目安とする。				
項目 学年		手段			コミュニケーション・ことば	
ステップⅠ 保育相談部	0歳	身振り	手話・指文字	読話・聴覚活用・口話	○話しかけられると、じっと顔を見る。 ○生活や遊びの中で声を出す。 ○簡単な指示がわかる。 ○親子のやりとりを楽しむ。 ○要求を指さしや身振り、表情などで表す。 ○簡単な動作の模倣をする。 ○擬声語・擬態語をいくつか理解する。 ○あいさつの手話がわかり、使おうとする。 ○要求を手話で伝えようとする。 ○生活の中のいろいろなものに目を向け、変化や違いに気づく。 ○慣れた人には、自分から近づいたり、話しかけようとしたりする。 ○擬声語・擬態語を自分から表出する。 ○身近なものの名称に関する理解語が増える。 ○動作に関する理解語が増える。 ○理解語をいろいろな方法で表出する。 ○友達や教師の名前を理解する。 ○簡単な2、3語文を理解する。 ○手話に合わせて口が動き、声が伴う。	
	1歳				○話し手の動きを模倣しようとする。 ○具体物と絵のマッチングをする。 ○身近な人の声や身振りをまねる。 ○指さしや身振りに声が伴う。 ○家族の呼び名やものの名前がいくつかわかる。 ○要求を音声言語で伝えようとする。 ○話し手を注視しようとする。	
	2歳				○簡単な口形模倣をしようとする。 ○手話や動きに抑揚のある声が伴う。 ○簡単な問いかけに答える。 ○簡単な指示が身振りでわかる。 ○日常生活に必要な簡単な言葉を理解する。 ○手話の理解語が増える。	
ステップⅡ 幼稚園部	3歳	身振り	手話・指文字	読話・聴覚活用・口話	○口形や音節数をあわせて口声模倣をする。 ○日常の生活に必要な<u>ことば</u>を使う。 ○したいこと、してほしいことを<u>ことば</u>で表現する。 ○2、3語文の口声模倣をする。 ○要求や経験を簡単な文の形で表現する。 ○問いかけの<u>ことば</u>を理解する。 ○問いかけに対して、単語や簡単な文で答えることができる。 ○絵や文字を手掛かりにして経験したことを簡単な文で話す。 ○自分の考えや経験を、身振り、手話、指文字、音声言語などで伝えることができる。 ○会話の中で身振り、手話、指文字、音声言語などを使い、友達とのコミュニケーションを楽しむ。 ○助詞を含む3、4語文の口声模倣をする。 ○疑問を持ったことについて、適切な問いかけの文で話す。 ○身の回りのことや出来事について話すための動作語を用いて話す。 ○空間、位置、順番を表す言葉を使う。 ○想像したり空想したりしたことを話すことができる。 ○やりもらい文で話すことができる。 ○絵本等のストーリーを理解し、イメージを広げたり想像したりできる。 ○友達の名前等よく目にする文字に興味を持つ。 ○文字と絵のマッチングができる。(カルタ・スリーヒントクイズなど) ○書かれた文字を読むことができる。 ○5語文程度の文の中で正しく助詞を使う。 ○重文で話す。 ○簡単な単語や短い文を読み、だいたいの内容がわかる。 ○複文で話す。 ○「～れる」、「～られる」を使って、助詞を含む受け身の表現ができる。 ○言葉を別の言葉で説明できる。 ○友達の話に注意を向け、その内容を理解しようとしたり、問い返したりする。 ○話し合う話題に沿って発言し、話が逸れても戻ることができる。 ○経験したことを順序立てて話すことができる。	
	4歳					
	5歳					

		手段			コミュニケーション	言葉	
ステップⅢ	小学部	1・2年	手話・指文字	読話・聴覚活用・口話	筆談	○話し手を注視して聞く。 ○多様なコミュニケーション手段があることを知る。(手話・口話・指文字・筆談など) ○手話語彙(生活言語)を増やす。(手話歌) ○自分の意思が伝わるように工夫する。(伝言・伝達ゲーム) ○簡単なルールを理解して、言葉遊びやゲームを楽しむ。 ・なぞなぞ ・クイズ ・ビンゴゲーム ・フルーツバスケット ○語彙の拡充 ・季節のことば ・行事に関することば ・オノマトペ ・上位概念 ○言葉遣い ・手紙や招待状を書く	1年<上> ①人や場所の名前が分かる ②指示の違いが分かる ③擬声語・擬態語が分かる ④読話に慣れる ⑤「だれ」 ⑥「なに」・読話が進む ⑦「どこ」・自発的な発話 ⑧動詞の過去形・二語文模倣 ⑨「どうしたの」・一～二語文作り ⑩「何をしているの」・二文節模倣・身近な言葉 ⑪話し合いの習慣・疑問詞を使う・身体名称等 ⑫昨日/今日/明日の曜日・天気 ⑬「だれが」「何を」「どうしている」三語文 ⑭「～が～した」「～を～した」 ⑮ロングアンサー・「～てから」・序数詞 1年<下> ①格助詞「を」「で」「どんな」・形容詞の連体形・名数 ②買い物での会話・「どこへ」「～がいる」「～がある」 ③「いつ」「どこで」「何をした」等・曜日の順序 ④格助詞「へ」「で」「と」・感情表現「困ったなあ」等 ⑤「どうして」「どんなふうに」・擬態語を使う ⑥格助詞「で」「に」「～でもいい」・形容詞/動詞 ⑦時間的順序に従って想像したことを話す・劇化 ⑧5W1H・「～とき」「～から」・指示語「これ」 ⑨会話交じりの叙述文・順序を表す言葉 ⑩時に関する語句・「どんな気持ち」「～ことがある」 ⑪やりもらい文・「～もの」・視写できる ⑫指示代名詞「これ」「そこ」・詳しく順序立てて話す 2年<上> ①「のは」「に」「で」「もの」「には」 ②「ので」「から」「してもらう」「より」・動詞の時制(常体・敬体) ③「もし～したら」「それから」「～て」「すると」 ④「～と」「～たり～たり」「なんのため」 ⑤「～を～てあげる」「～てやる」・順序良く話す ⑥「だけど」「やっ」と「なかなか」「～うとする」・動詞の肯定形/否定形・要領よく説明する 2年<下> ①「どうしてか」というと」「～し～」「だって」・助詞「が」「を」「に」「で」・「～のだそうです」「～がる」 ②「～たらどうするの」「～ばいい」「～か～て」・道案内ができる・おつかいにいける ③「～たら」「～も」・他動詞/自動詞・年賀状 ④「しばらくして」「まもなく」「すぐ」「～はず」「いつも」「ときどき」・「～をどうする」「～がどうなる」 ⑤「～ころ」「～とき」「あとで」「いま」・「～ている」

＊文の構造上の種類＊

- (1) 単文…主語と述語が、それぞれ一つしかない文。

【例】花が 咲く。
- (2) 複文…主語と述語のある文の一部分に、更に主語と述語を含んでいる文。

【例】私は、雨が 止んでから 出かけた。
- (3) 重文…単文が、二つ以上つながって、一つの文になっている文。

【例】鳥が 鳴き、花が 咲く。

出典：三省堂 例解小学国語辞典

3・4年	手話・指文字	読話・聴覚活用・口話	筆談	○イメージを持って聞く。 ○手話語彙（学習言語）を増やす。 （手話歌） ○相手に正確に伝える工夫をする。 ・ゲーム等の説明をする ○読話の習慣がつき、わからないことを尋ねる。 ○友達同士のやりとりができる。 ○テレコミュニケーション（電話・ファックス）・電子メールの方法を理解し、使うことができる。 ○語彙の拡充 ○言葉遣い ・手紙や招待状を書く	3年<上> ①「～たり～たり」「～ながら」・敬語 ②「～そうです」「～ても～ません」・形式名詞 ③様々な言い回し・文章の読み取り ④複合動詞・説明文の読み取り ⑤「～ようだ」・自分の経験と比較しながら読む ⑥「形容詞+そうです」・同音異義語（動詞） 3年<下> ①「動詞+らしい」・自動詞・他動詞 ②「～れる」「～られる」・年賀状 ③なぞなぞ・四語を使った文 ④「～せる」「～させる」・順序を表す言葉 ⑤「～がくれた」「～にもらった」 4年 ①登場人物の気持ち・「～だけ」 ②句読点・「～ある」「～いる」 ③「っ」のつく言葉・常体・敬体 ④図と文の読み取り・「～ことがあります」 ⑤常体の文・「ん」のつく文 ⑥「形容詞+かった」・動詞の活用 ⑦指示語・イ音便 ⑧「動詞+ない」・「～がなかったら～」 ⑨接続詞・「上一段活用動詞+ない」・複合名詞 ⑩気持ちを綴る・「～よう」「～う」 ⑪行間を読む・「～ようです」 ⑫「なぜか」「どうしてか」・「～らしい」 ⑬音を言葉で表現する・外来語・「行くと来る」 ⑭「～しか～ない」「～に～された」 ⑮話の推移を読み取る・動詞の活用	
5・6年	手話・指文字	読話・聴覚活用・口話	筆談	○相手の気持ちを考えながら聞く。 ○手話語彙（学習言語）を増やす。 手話歌 ○日本手話と日本語対应手話について知る。 ○相手や場に応じたコミュニケーション手段を使って意思を伝えたり、あいさつをしたりする。 ○正確に伝える工夫をする。 集会 交流会 行事 ○問いかけに、考えながら、自分のことばで答えることができる。 ○話し合い活動に参加することができる。 ○新しく覚えた言葉を生活や日記の中で使いこなそうとする。 ○聴者と筆談をする。 ○語彙の拡充 ○言葉遣い ・手紙や招待状を書く	5年 ①「うかぶ」「ぬける」・形式名詞「ところ」 ②「が」と「に」の違い ③メモを取る・「～ばかり」「～か～だ」・副詞 ④動詞「みる」・助詞「って」・副詞の呼応 ⑤連用修飾語・連体修飾語・「どんな」「どんなふう に」 ⑥要約・「～してもらう」「～してあげる」 ⑦連体修飾語で作文 ⑧国語辞典・「その中に」「そのほかに」 ⑨類推しながら読む・「の」「のに」「ので」 ⑩「なぜ」「どうして」・「～は～もの、～は～もの だ」 ⑪「このことから」要約・形式名詞入り作文 ⑫「～する」動詞・「～できる」「～なる」 ⑬接続助詞「～から」「～なので」・「それでも」 ⑭形容動詞の活用・指示代名詞・副詞 6年 ①「言う～」複合動詞・敬語作文・ 「～ながら」「～てから」「～ただけ」 ②主語と述語の関係・重文・複文 ③漢字辞典・要約・「～だけ」「～も」 ④マークの表す意味（言葉）・「～という」 ⑤「～てみる」補助動詞・指示語 ⑥事実と想像の読み取り・手指の動きに応じた言葉 ⑦格助詞・よい表現・メモ作文 ⑧接続助詞「～し」「～と」 ⑨文章の構成・「まず」「ところが」「このように」 ⑩心情を表わす形容詞・時制・「かける」 ⑪指示代名詞・「これから」「それに」・能動・受動 ⑫要約・助動詞「ようだ」「よう」 ⑬長文読解・「～ようになる」	

		手段		コミュニケーション		言葉				
ステップⅣ	中学部	手話・指文字	読話・聴覚活用・口話	筆談	○コミュニケーション手段の種類について知る。(手話・指文字・読話・聴覚活用・口話・筆談)	生活文	Ⅰ	1 TPO に応じたあいさつ	※聾学校用国語言語編活用	漢字検定
					○指文字について学ぶ。(表現・歴史)			2 メモを取る・ハガキを書く		
					○手話を学び、手話語彙を増やす。 (同音異義語・対義語、類義語、対の語、形の似ている単語、教科名など)			3 掲示物の示す意味		
					○携帯電話のマナーと危険性について学ぶ。 (LINE Instagram Facebook Twitter 写真の扱い等)			4 小づかい帳をつける		
					○行事の中で用いられることばは、手話・指文字で確実に表すことができる。 (体育大会・文化祭・スキー教室等)			5 標識や表示の示す意味		
					○他者の手話を正確に読み取る。			6 自分の言葉に責任をもつ・言葉の使い方		
					○自分の読話の力について知る。			7 連絡のし方 (電話・Fax・メール)		
					○他者にわかるようにコミュニケーションを工夫する。 (対聾者、対聴者)			8 標語の示す意味・標語をつくる		
					○手紙 (お礼状等) ・FAXを用いてコミュニケーションができる。			9 心を伝える言葉づかい		
					○携帯電話やパソコン等を用いて、Eメールのやりとりができる。			10 旅行計画を立てる		
					○面接等での適切なやりとりができる。			11 慣用句とことわざの意味・使い方		
						文法	Ⅱ	12 TPO に応じた人の呼び方・言葉づかい		
								13 相手の意図・気持ちを察する		
								14 領収書・口座・金融機関などの用語		
								15 同音異義語・上位語・下位語		
								① 文・文章・段落		
								② 普通の言い方と丁寧な言い方		
								① 打ち消しの言い方		
								④ 時を表す言い方		
								⑤ 様子をくわしく述べる言い方		
								⑥ 文の組み立て方		
								⑦ 文をつなぐ言葉の言い方		
								⑧ 感動を表す言葉の使い方		
								⑨ 願望を表す言葉の使い方		
								⑩ 言葉をつなぐ単語の使い方		
								⑪ 文の終わりに添える言葉の使い方		
										英語検定
										数学検定
										読字力検査
										今週のニュース

		手段		コミュニケーション	言葉	
ステップⅤ 						